

職業実践専門課程の基本情報について

令和6年6月30日

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
東京医業看護専門学校		1983/12/23	須田 英明	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-3688-6161			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人滋慶学園		1983/12/23	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	救急救命士科	平成19(2007)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	救急現場または災害現場において冷静な判断と処置ができる知識・技術を持ち、人の「苦しみ」や「痛み」、「不安」や「悲しみ」を理解し、『安心』を与えることのできる病院前医療のプロ(救急救命士)を養成する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得目標資格】救急救命士、JPTECプロバイダー、JPTECファーストレスポnder、応急手当普及員、コミュニケーションスキルアップ検定						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,180 単位時間 単位	915 単位時間 単位	1,140 単位時間 単位	1,125 単位時間 単位	- 単位時間 単位	- 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
120人	125人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		36	人			
	■就職希望者数(D)		34	人			
	■就職者数(E)		34	人			
	■地元就職者数(F)		21	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		62	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	家業後継、病気のため卒業のみあり (令和5年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価	評価団体:		特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構	受審年月:	平成26年4月	評価結果を掲載したホームページURL:	https://www.tcm.ac.jp/school/public_inf/o/third_party.html
	※有の場合、例えば以下について任意記載: 有						
当該学科のホームページURL	http://www.tcm.ac.jp						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		3,180 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
うち必修授業時数		3,180 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		3人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、必要となる最新の知識、技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善並びに改訂を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

理事会のもとに位置づけて運営を行っている。学校で編成している教育課程を委員会に提示し、委員会で挙げられた意見を参考にしつつ、実践的な専門知識や技術を身につけられるよう教育課程を編成し、理事会の承諾のもと教育課程を決定する。決定された教育課程については、委員会に告知をするとともに継続的に検証を行っていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
古島 昭博	学校法人滋慶学園 常務理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
小川 昭久	学校法人滋慶学園 運営本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
須田 英明	東京医薬看護専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
一宮 頼子	東京医薬看護専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
石橋 佳子	東京医薬看護専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
篠田 美和	東京医薬看護専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
仁村 将大	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
大山 遥	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
堀 延之	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
持田 和夫	東京医薬看護専門学校 くすり総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
久嶋 香里	東京医薬看護専門学校 化粧品総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
大野 光宣	東京医薬看護専門学校 化粧品総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
平上 恭弘	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
小泉 恭野	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
島滝 美奈子	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
田中 美月	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
小野 佑	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
内藤 修治	東京医薬看護専門学校 言語聴覚士科・視能訓練士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
渡邊 健一	東京医薬看護専門学校 言語聴覚士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 まゆ	東京医薬看護専門学校 視能訓練士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤井 昭光	東京医薬看護専門学校 臨床工学技士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
大越 一生	東京医薬看護専門学校 救急救命士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤崎 隆行	東京医薬看護専門学校 看護学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤田 雅美	東京医薬看護専門学校 看護学科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
石見 香奈	東京医薬看護専門学校 歯科衛生士科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
石本 良之	医療秘書教育全国協議会 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
鹿沼 亮	IMSグループ 医療法人財団明理会 行徳総合病院 医事課 係長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
篠原 陽子	日本チェーンドラッグストア協会 ヘルス・アソシ・ビューティーケア 人材育成センター 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
沖山 貴仁	株式会社MCCマネジメント	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
安齋 寛	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
飯田 将一	中央エアゾール化学株式会社 営業	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
矢田 綾香	一般社団法人 日本化粧品検定協会 顧問	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
長岡 雄一	社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 理事長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
丸林 彩子	埼玉医科大学総合医療センター 主任 視能訓練士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
近藤 敏哉	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 医療技術部ME室 副室長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
井竹 康郎	一般社団法人 千葉県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
齋藤 健吾	新井クリニック 救急救命士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
緒方 毅	国士館大学体育学部スポーツ医科学科 准教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
治田 寛之	千葉県言語聴覚士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
高添 真吾	医療法人社団武蔵野会TMG宗岡中央病院リハビリテーション科 主任	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
根本 秀樹	江戸川区歯科医師会 会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
大嶋 宏美	医療法人社団Compassion 宇田川歯科医院 チーフ 歯科衛生士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
小島 悠乃	医療法人社団フロンティア やまわき歯科医院 主任 歯科衛生士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
板橋 知子	公益財団法人東京都助産師会理事 江戸川区地区会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
内山 真弓	日本医科大学武蔵小杉病院 副看護部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、10月)

(開催日時)

第1回 令和6年6月8日 10時～12時

第2回 令和6年10月26日 10時～12時

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

救急救命士として必要となる知識、技術、実践能力において必要なニーズについて意見をいただいた。専門知識、技術は重要であるが、近年は救急救命士に高いコミュニケーション能力が求められている。シミュレーション実習、消防団などの団活動、地域との連携を深める防災教育などの際に、振り返りやフィードバックを行うなどし、実習授業のシラバスに反映させている。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

救急用自動車同乗実習の科目を設け、学生が学内で学習した内容を現場で確認し、現状の課題や気付きを得て、より高い目標を設定する機会が持てるよう、救急用自動車同乗実習を位置づけている。また、医療人、社会人としての行動や対応、社会人として求められる基本的な能力、態度を自覚、意識することができる機会を持てるよう、現場実習を行う目的としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

救急救命センター等における24時間当直勤務時間帯において、救急医療の現場の見学および医行為の介助等について指導を受ける。実習内容については、臨地実習チェックリストによって定められた項目について説明・見学・実施を行うとともに、学生は実習レポートを記入する。実習担当教員は、実習先指導者からの評価表の内容を組み込んで評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	救急医療機関において、実際の医療現場での活動を通じて救急救命士の役割・業務を知る。	東京女子医科大学附属足立医療センター・埼玉医科大学総合医療センター・東京医科歯科大学医学部附属病院
臨床実習Ⅱ	救急医療機関において、実際の医療現場での活動を通じて救急救命士の役割・業務を知る。	東京女子医科大学附属足立医療センター・埼玉医科大学総合医療センター・東京医科歯科大学医学部附属病院

(別途、以下の資料を提出)

- * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
<p>学園の研修規程に基づき、教員の指導力の向上、授業力向上、クラス運営力の向上などを目的として研修計画の作成を行う。研修計画については外部機関も活用し、必要な知識や技術を向上できるように体系的に作成を行う。研修実施に際しては、教員個々の現場経験や教育経験、また学園在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標を設定し、研修方法や評価指標を的確に定めて実施する。</p>	
(2) 研修等の実績(令和5年度)	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 全国救急救命士教育施設協議会 教員研修 期間: 令和5年8月17日 内容: 新人教員が抱える課題について	連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会 対象: 本科専任教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 個人情報取扱従事者資格認定講習 期間: 令和5年7月 内容: 個人情報取扱従事者としての個人情報に関する講習等	連携企業等: 日本プライバシー認証機構 対象: 本科教職員
研修名: 滋慶教育科学学会 期間: 令和5年12月 内容: 教育技術の向上の事例検討等	連携企業等: 滋慶教育科学研究所 対象: 本科教職員
(3) 研修等の計画(令和6年度)	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 全国救急救命士教育施設協議会 教員研修 期間: 令和6年8月22日 内容: 未定	連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会 対象: 本科専任教員
研修名: 日本臨床救急医学学会 期間: 令和6年7月上旬 内容: 未定	連携企業等: 日本臨床救急医学会 対象: 本科専任教員
研修名: 日本病院前救急診療医学会学会 期間: 令和6年12月15日 内容: 未定	連携企業等: 日本病院前救急診療医学会 対象: 本科専任教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 個人情報取扱従事者資格認定講習 期間: 令和6年7月 内容: 個人情報取扱従事者としての個人情報に関する講習等	連携企業等: 日本プライバシー認証機構 対象: 本科教職員
研修名: 滋慶教育科学学会 期間: 令和6年12月 内容: 教育技術の向上の事例検討等	連携企業等: 滋慶教育科学研究所 対象: 本科教職員
(別途、以下の資料を提出)	
<ul style="list-style-type: none"> * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画) 	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
<p>自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。</p>	

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針・事業計画・システム
(3)教育活動	(3)教育目標・カリキュラム体系・成績評価・資格取得
(4)学修成果	(4)就職率・資格取得率・社会的評価
(5)学生支援	(5)就職指導・生活支援・経済的支援
(6)教育環境	(6)施設設備・学外実習・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(7)募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	(8)予算・収支計画・情報公開
(9)法令等の遵守	(9)法令遵守・個人情報保護・自己点検・自己評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	(11)国際交流・留学生

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で得た評価に基づき、校内の自己点検委員会で次年度の重点項目について見当を行う。検討した事項について令和7年1月の運営会議に諮り、2月下旬までに次年度の重点項目を決定し、事業計画に反映させ次年度の学校運営を行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 敦	一般社団法人TMG本部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界代表
古川 哲也	医療法人柏葉会柏戸病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界代表
手塚 平	株式会社粘土科学研究所	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界代表
嶋本 智明	株式会社ココミン	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界代表
森 章	拓植大学紅陵高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高校関係者代表
鈴木 信良	江戸川区葛西仲町町会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域代表
柴崎 由美子	本校救急救命士科在校生保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
加藤 亮	医療法人社団同愛会病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html

公表時期: 令和6年6月30日

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の教育活動の取り組みについて社会に対する説明責任を果たすとともに、構成で透明性の高い運営を推進し、教育活動の室の向上や社会全体からの信頼の獲得に資することを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	防災

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html

<https://www.tcm.ac.jp/admissions/tuition.html>

公表時期: 令和6年6月30日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料
(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話・医学英語 English・Medical English	医療従事者として国際社会に適応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。	1全	60	4	○			○		○		
2	○			情報科学 Information Science	医療における統計学の必要性の理解と、コンピュータ処理の実例を通してコンピュータの基礎を理解する。	1全	60	4		○		○			○	
3	○			生命・医学倫理 Medical Ethics	生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる種々の出来事を医療の立場から対応するために倫理的基盤を身に付ける。	1前	15	1	○			○		○		
4	○			コミュニケーションスキル I Skill of Communication I	救急救命士として「チーム医療」に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。	1前	15	1	○	△		○			○	
5	○			コミュニケーションスキル II Skill of Communication II	心理学の基礎的な知識の修得と、救急救命士として現場で求められる臨床心理学に基づくコミュニケーション能力について学ぶ。	1前	15	1	○	△		○			○	
6	○			解剖学・生理学 Anatomy and Physiology	人体の各器官の構造およびその機能について系統的に学ぶ。	1前	120	8	○			○			○	
7	○			病理学・微生物学 Pathology and Microbiology	疾病の病因と病理学や微生物と感染・免疫との相互関係について基礎的内容を学ぶ。	1後	60	4	○			○			○	
8	○			生化学 Biochemistry	生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝および関連疾患について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
9	○			薬理学 Pharmacology	生体内外の物質と生体の相互作用および薬物治療の基礎を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
10	○			健康と社会保障 Health and Social Security	公衆衛生の基本的な考え方や社会保障制度、社会福祉を学び、国民の健康や医療について学ぶ。	3後	30	2	○			○		○		
11	○			医学概論 I Introduction to Medicine I	救急医療の意義・救急医療体制・プレホスピタルケア・災害医療について学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
12	○			医学概論 II Introduction to Medicine II	看護・傷病者の接遇・ストレスマネジメント・在宅医療について学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
13	○			検査・感染 Inspection and Infection	医療機関における検査の種類・目的および感染の種類とその予防について学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
14	○			放射線医学 Radiology	臨床で用いられる電離放射線の基礎事項と、生物環境への影響と放射線防護などについて学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
15	○			観 察 Observation	傷病者の状態を観察し、緊急度・重症度の判断を行うための知識を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
16	○			処置論 Medical Treatment	救急救命士が行う救急救命処置に関する知識・技術について学ぶ。	1後	45	3	○			○		○		
17	○			救急症候・病態生理学Ⅰ Emergency Symptom and PathophysiologyⅠ	呼吸・循環不全・心肺停止の症候・病態生理について理解し、観察・評価・救急処置法について学ぶ。	2前	45	3	○			○			○	
18	○			救急症候・病態生理学Ⅱ Emergency Symptom and PathophysiologyⅡ	神経系に関わる疾患の症候・病態生理について理解し、観察・評価・救急処置法について学ぶ。	2前	45	3	○			○		○		
19	○			救急症候・病態生理学Ⅲ Emergency Symptom and PathophysiologyⅢ	消化、泌尿器系に関わる疾患の症候・病態生理について理解し、観察・評価・救急処置法について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
20	○			救急症候・病態生理学Ⅳ Emergency Symptom and PathophysiologyⅣ	その他各種疾患の症候・病態生理について理解し、観察・評価・救急処置法について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
21	○			疾病救急医学Ⅰ Disease Emergency MedicineⅠ	神経・呼吸・循環器系の主な疾患の発生機序、症状、救急処置等について学ぶ。	2全	90	6	○			○			○	
22	○			疾病救急医学Ⅱ Disease Emergency MedicineⅡ	消化・泌尿・内分泌・血液・皮膚・感染症の主な疾患の発生機序、症状、救急処置等について学ぶ。	2全	60	4	○			○		○		
23	○			外傷総論 External Wound General Remakes	外傷についての受傷機転、発生機序、ショック、現場活動について学ぶ。	2前	15	1	○			○		○	△	
24	○			外傷各論 External Wound General Exposition	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、所見および予後等や救急処置・搬送方法を学ぶ。	2前	75	5	○			○		○	△	
25	○			環境障害・中毒学 Insult and Poisoning Study	中毒物質・環境因子による障害についての発生機序・病態・症状・予後などについて理解し、観察・評価、救急処置および搬送法について学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
26	○			シミュレーション実習Ⅰ SimulationⅠ	実習室内外におけるシミュレーション実習により、現場で必要となる基礎的な知識・技術・態度を身に付ける。	1全	270	6			○	○		○	△	
27	○			シミュレーション実習Ⅱ SimulationⅡ	実習室内外におけるシミュレーション実習により、現場で必要となる応用的な知識・技術を身に付ける。	2全	360	8			○	○		○	△	

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
28	○			シミュレーション実習Ⅲ SimulationⅢ	実習室内外におけるシミュレーション実習により、これまでの学習を統合し現場に必要な知識・技術を総合的に身に付ける。	3全	270	6			○	○		○	△	
29	○			救急用自動車同乗実習 Riding together for Ambulance practices Study	消防機関における実習により、救急業務の実際を理解し、学習した知識・技術が現場でどのように活かされているかを学ぶ。	2前	45	1			○		○	○	△	
30	○			臨床実習Ⅰ Clinical PracticeⅠ	救急医療機関において、実際の医療現場での活動を通じて救急救命士の役割・業務を知る。	2後	90	2			○		○			○
31	○			臨床実習Ⅱ Clinical PracticeⅡ	救急医療機関において、救急救命士の役割を知り、実際の医療現場での活動を通じて実践的な知識・技術・接遇を身に付ける。	3前	90	2			○		○			○
32	○			一般知能・一般知識 General Intelligence and Knoeledge	公務員・社会人として求められる一般知識や論理的思考力の基礎を学ぶ。	1全	240	16			○		○			○
33	○			総合基礎Ⅰ Preparation for The Civil Service ExamⅠ	公務員試験対策プログラムに沿って段階的に学習する。	2全	240	16			○		○			○
34	○			総合基礎Ⅱ Preparation for The Civil Service ExamⅡ	公務員試験対策プログラムに沿って弱点克服講座、直前対策講座、模擬試験等を行い、合格圏内に入る実力を身に付ける。	3前	360	24			○		○			○
35	○			総合救急医療Ⅰ Preparation for The National ExaminationⅠ	救急救命士として求められる知識を総合的に身に付ける。	2後	60	4			○		○			○
36	○			総合救急医療Ⅱ Preparation for The National ExaminationⅡ	Iの応用として救急救命士として求められる知識を総合的に身に付ける。	3後	180	12			○		○			○
合計						36	科目		3180			単位時間				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：当該学年に取得すべき科目を全て履修し、評価認定されたものが卒業できる。	1学年の学期区分	2期
履修方法：本校が定める所定の科目授業に出席し、成績評価をおこなう。	1学期の授業期間	24週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。